

第5学年3組 体育科学習指導案

日時 月 日 () 校時
 学級 5年3組36名
 場所 体育館
 授業者 伊吹 亮太

1. 単元名 「私たちの地球が大変だ!! (表現運動)」

2. 領域の特性

表現運動は、自己の心身を解き放して全身で踊ったり、イメージの世界に没入してなりきって踊ったりすることに魅力がある。また、互いの動きや考え方のよさを生か合い、仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

3. 単元で身につけたい資質・能力の系統表

	低学年	中学年	高学年	(中学校)	
知識及び技能	○身近な題材の特徴を捉える。 ○高低の差や速さの変化のある全身の動きで即興的に踊る。 ○どこか「大変だ!」や「すごい!」などの急変する場面を入れて簡単な話にして踊る。	○身近な生活などの題材からその主な特徴を捉える。 ○動きを速くしたり遅くしたり、まじない「感じ」や人聲や呼吸の音や対立する動きで変化をつけていたり、メロディのあるまじないの動きを流れるように踊る。	○いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉える。 ○表したい感じやイメージをひとりの動きで即興的に踊ったり、グループで簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりする。	○多様なテーマからイメージを捉える。 ○イメージを即興的に表現する。 ○動きを誇張したり繰り返したりして、変化と起伏のある「はしめな-かわり」のひとまとまりの動きで表現する。	
思考力、判断力、表現力	○題材の特徴的な様子を出し合い、その中から行いたい様子を選んだり、それにふさわしい動きを思い付けたり、友達との動きを取り入れたりする。 ○よい動きを見付けたり、考えたりしてこれを友達に伝える。	○自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えたり踊り方や交流の工夫を工夫する。 ○課題解決のために考えたことを友達に伝える。	○自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えたり練習や発表・交流の工夫を工夫する。 ○課題解決のために自己や仲間と話し合い、判断したり、他者に分かりやすく伝えたりする。	○表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 ○自己や仲間の課題について、自己や仲間が思考し判断したことを、言葉や文章などでも表したり、他者に分かりやすく伝えたりする。	
学びに向かう力、人間性等	○運動遊びに進んで取り組む。 ○誰とでも仲よく踊る。 ○場の設定や用具の片づけを友達と一緒にする。 ○友達とふさわしいように周りの安全な気を付けて踊る。	○運動に進んで取り組む。 ○誰とでも仲よく踊る。 ○場の設定や用具の片づけを、友達と一緒にする。 ○友だちの動きや踊るための安全な気を付けて踊る。 ○周りの安全を確かめて踊る。	○運動に積極的に取り組む。 ○互いの動きや考えのよさを認め合うこと。 ○仲間と助け合うこと。 ○自分が出した役割を果たすこと。 ○場の安全に気を配る。	○ダンスに自主的に取り組む。 ○互いに助け合い教え合おうとする。 ○話し合いに貢献しようとする。 ○一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする。 ○健康・安全を確保する。	

5. 単元目標

- 題材の主な特徴をとらえ、表したい感じをひとりの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりできるようにする。
- 自己やグループの課題解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えたり練習や発表・交流の工夫を工夫するとともに、自分の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- 運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合ったり、場の安全に気を配ったりできるようにする。

【知識及び運動】
 【思考力、判断力、表現力等】
 【学びに向かう力、人間性等】

6. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点で構造的に捉えた単元イメージ

時間	1	2	3	4	5	6	評価規準
学習課題	題材を表現するにはどうすればよいだろう	表したいイメージを表現するには動きをどのように工夫するとよいだろう	表したい感じやイメージを相手に伝えるには、構成や動きをどのように工夫するとよいだろう				知識・技能 ①題材の特徴を捉え、その特徴を表現する工夫を考えた上で表現して踊る。 ②動きを誇張したり変化をつけていたり、簡単なひとまとまりの動きにして踊る。 ③変化と起伏のある「はしめな-かわり」のひとまとまりの動きで表現して踊る。
0	1. 学習の行い方を知り、単元のゴールイメージを持つ ○全身を使って即興的に動くこと	1. 心と体をほぐす運動 「あした天気になあれ (終盤にかけて話仕立てにしていく)」 ○全身を使って即興的に動くこと	2. 学習課題の確認 ○題材の特徴を捉え、即興的に表現すること	3. 構成タイム I 自然災害 (噴火、台風、津波、地震) ○題材の特徴や表したいイメージをグループで共有すること ○題材からイメージした様子から構成を考へること	3. 課題確認タイム ○表したい感じやイメージを表現するために、グループで工夫を持って構成や動きを工夫すること	4. ローションで見せ合う ○それぞれのグループの構成や動きの工夫を見つけて伝える	思考・判断・表現 ①グループや自己の課題を捉えている。 ②課題に応じての動きや練習の動きを捉えたり工夫を考へたりする。 ③表したい感じやイメージが表現されているかを確かめるために交流性を高めたりしている。 ④課題解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
10	2. 運動カタルに取り組み ○全身を使って動くこと	2. 学習課題の確認 ○題材の特徴を捉え、即興的に表現すること	3. スポーツカタルタイム ○ダンスに自主的に取り組む。 ○互いに助け合い教え合おうとする。 ○話し合いに貢献しようとする。 ○一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする。 ○健康・安全を確保する。	4. 自然災害ジェスチャータイム ○イメージを伝えるために必要な構成や動きに気づいて試すこと ○課題解決のために必要な構成や動き方を選ぶこと ○構成や動きを工夫して、簡単なひとまとまりの動きにして踊る			①表したい感じやイメージを表現する工夫を考えた上で表現して踊る。 ②互いの動きや考えのよさを認め合うこと。 ③互いに助け合って動きを高めようとする。 ④自分が出した役割を果たすこと。 ⑤場の安全に気を配っている。
20	3. 学習課題の確認 ○題材の特徴を捉え、即興的に表現すること	3. スポーツカタルタイム ○ダンスに自主的に取り組む。 ○互いに助け合い教え合おうとする。 ○話し合いに貢献しようとする。 ○一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとする。 ○健康・安全を確保する。					
30	4. 洗濯物になってみよう ○言葉や動きによって表現すること ○運動に積極的に取り組むこと	4. 全体共有 ○動きを誇張したり変化をつけていたりする動き方を知ること ○他者の考えから動きの工夫の仕方を見つけてこと					
40	5. ジェスチャータイム ○互いの動きのよさを認め合うこと	5. スポーツジェスチャータイム ○変化や起伏をつけた構成や群の動き方を工夫すること ○題材の特徴を他者に伝えるための動き方を見つけて選んだりすること ○互いの考えや動きのよさを認め合おうとしている					
45	6. まとめ・ふりかえり						
まとめ	全体を使うと題材を表現しやすくなること	動きを誇張したり変化をつけていたり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ることができる					

7. 本時の目標 (5時間目/6時間目)

- 表したい感じやイメージを強調するように、グループで構成や動きを工夫して感じをこめて踊ることができる。
- 表したい感じやイメージにふさわしい動きにするために、構成や動き方をグループで考へている。

8. 本時の展開

時間	学習活動	教師の指導・留意点
はじめ10分	○期待する児童の気付き ☆予想される児童のつまずき	○教師の指導・留意点 ☆配慮を要する児童への指導・評価規準(評価方法)
1. 心と体をほぐす運動(10分)	○教師やグループの仲間の動きを真似しながら、様々な動き方の工夫に気づく。	○中盤で学んだ動き方の工夫を意識づけるために、多様な動きをしている子やメリハリのある動きで踊っているを取り上げる。 ○動きが単発的にならないように、「激しい雨が降ってきたから全員避難だ!」というように、場面の違いを動きで表現できるような話を投げかける。 ・知②(行動観察)
2. 学習課題の確認(10分)	○前時までの活動や課題を振り返り、本時の学習課題を確認する。 本時のめあて(発問) グループで表したい感じを表現するために必要なことは何だろう。	○動き方の工夫や構成の効果など、これまでの学習で覚えてきた動きを確認する。 ○各グループの困り感を取り上げながら、それぞれの困り感に対する改善の仕方(動き方・構成のつけ方)を全体で確認する。
3. 構成タイム I (10分)	○前時に構成した内容をもとに、より必要になる動きや構成の工夫をグループで考へる。 ○実際に動きにしながら、表したい感じを表現するために必要なことに気づく。 ☆表したいイメージが明確にならず、単調な動きで繰り返して踊っている。	○これまでに蓄えた「動き方の工夫」や「構成の工夫」が見られたら、そのグループを即座に全体に伝えるようにする。 ○単調な動きになっているグループには、「どのようなイメージを表現したいの?」と問いかけ、表したいイメージを言語化してグループ内で共有できるようにする。 ○動きを考へたら、「それってどんな感じ?」と問いかけながらすぐに動きで表現するように促す。
4. ジェスチャータイム (10分)	○表したいイメージが伝わる踊りになっているかをローテーションで見合うようにする。	○やってみてあとに「どうだった?」と問いかけると、考へた動きがグループで共有したイメージに合っていたかを振り返るようにする。 ○あえて表したい感じを伝えずに見せ、兄弟グループにどのように見えたのかを問いかけるように伝える。 ○タブレットの録画機能を活用し、後で自分たちの姿を客観的に捉えられるようにしておく。 ☆これまでに蓄えた動き方や構成の工夫が分かる資料をそれぞれのグループに配布しておく。
5. 構成タイム II (10分)	○ジェスチャータイムの言葉をもとに、グループで再度構成や動きを修正しながら踊ってみる。 ○中盤に経験した動き方を活用しながら修正を加えることにより、課題の解決につながることに気づく。 ☆課題解決につながるふさわしい構成や動き方を選ぶこと	○「個人」の動きではなく、「グループ」の動きがどう見えているかに着目することを伝える。 ○表したい感じを伝えるために、どのような動き方の工夫をしたのかを全体で共有する。 ○ジェスチャータイムで見つけた課題に対して修正の工夫が見られるグループを取り上げ、修正する視点を全体で共有できるようにする。 ・思③(行動観察・学習カード)
6. 本時で考へたことを振り返りながら、次時の活動の見通しを持つ。(5分)		○表したい感じを伝えるために、どのような動き方の工夫をしたのかを全体で共有する。 ○見合いタイムで見つけた他グループのよいところを全体で共有する。

4. 指導によせて

- (1) 児童の実態
 ・再現型の踊りの経験はあるが、自分たちで創造して踊ったり、多様な動きを生み出したりの経験や学習は少ない。
 ・見本を真似して踊るとは楽しんでできるが、題材から想像したことを体で表現するのには戸惑いや恥かしさを感じる児童が多い。
- (2) 教材について
 ・導入で扱う洗濯物は、どの児童にとっても身近で具体的なものであるため、表現のイメージが伝わりやすく、そのものになりやすい題材である。また、シーツを洗濯機に入るところから乾かすといった一連の流れを積み重ねることで、導入段階から話をつけていくイメージを持たせることができる教材である。各時間の導入で「あした天気になあれ」では、教師が洗濯物を洗濯機に引っ掛けることができる。洗濯機が回りながら洗濯物を回すことで、動きのイメージが伝わりやすく、動きを誇張したり変化をつけていたり、構成につながる動きへと発展させることもできる。
 ・単元導入で扱う自然災害は、社会科で学習した内容となりがちであるため、災害の発生から終わるまでの場面を既習事項となつて考えやすい教材である。社会科でも写真や映像といった資料を扱っているため、「はしめな-かわり」といった場面構成でイメージやすく、動きを誇張したり変化をつけていたり、構成につながる動きへと発展させることもできる。
 ・グループ内で男女がジェスチャータイムは、伝わる喜びを感じたり、他者のよい動きや構成を取り入れたりするところがある。その際、「題材になりていないか?」という問いかけが伝わりやすいため、児童が主体的に動くことができる。自分たちの動きや構成をよく工夫しようとする意識を高めることができる。
- (3) 研究の視点に関する主な手立て (☆運動に意欲的でない児童への配慮)
 学びを誘い込む 学びをつなげる 学びを分かち合う
- (4) 期待する子供の気付き
 学びを誘い込む 学びをつなげる 学びを分かち合う

9. 準備物 (学習カード・場の設定等)

即興的な表現

○即興的に表現することを体験するスポーツカタル



バスケットボール 野球 バレエ

○メリハリ(終盤・強弱)のある動きや多様な体の動き、群の動きの工夫 (あした天気になあれ)

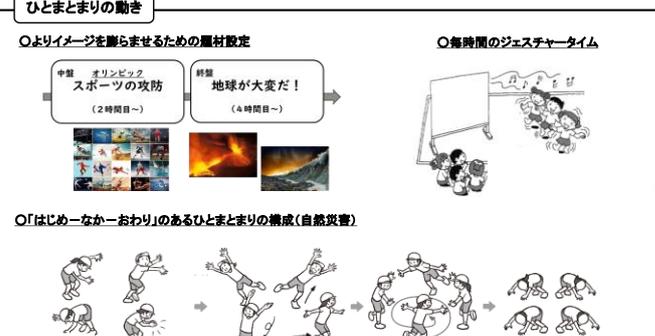


地震が起きた 熱中症で倒れる 激しい雨が降ってきたから避難だ!

ひとまとまりの動き

○よりイメージを膨らませるための履材設定

中盤 オリンピック スポーツの攻防 (2時間目) → 地球が大変だ! (4時間目)



○毎時間のジェスチャータイム

○題材の特徴を捉えるイメージマッピング 「○○カタル」

○学習カード



ドロボロ 火山の噴火 マママ ほうのお 弾丸